

2022年度 講師派遣活動記録

整理番号: 20220920

事業名	環境教育およびエコロジカルライフを実践するための講座開催事業
-----	--------------------------------

活動名	ごみ減量啓発講座
-----	----------

担当者	高根 美保
-----	-------

主催団体	NPO法人エコライフはままつ
------	----------------

事業区分	講師派遣
------	------

事業サイクル	継続事業
--------	------

活動の目的	環境行動（3R）の実践者を増やす。 環境マークを正しく理解する。
-------	-------------------------------------

実施内容	
活動日時	2022年9月20日(火)13:45~14:35
活動場所	浜松市西区雄踏町浅羽公民館
活動者名	高根美保
詳細	①廃棄物について ②浜松市のごみの現状 ③食品ロスの現状と対策 ④雑がみの説明 ⑤環境マークについて ⑥紙容器リサイクル事業説明

事業の成果	<p>参加者:35名 配布物 ごみ減量リーフレット、浜松市ごみ減量チラシ、紙容器紙容器回収袋、紙容器啓発チラシ、ごみ減量啓発ウエットティッシュ</p> <p><説明に対する参加者の様子></p> <p>①ごみ出しのルール的重要性と正しい分別を行う必要性を理解してくれた。 ②浜松市の現状では、ごみ出しの量や処理費については、理解が難しいといった意見があったが、最終処分場の現状や環境や地域にやさしい生活を目指す事を説明すると理解を得ることが出来た。 ③食品ロスでは、現実感がなく「出してはいない」といった考えであったが、食品ロスの写真などを見せると反応があった。ごみを知ることが大切だと感じた。 ④紙類の減量では、なかなか理解が出来ない様子であった。また、古紙を出す場所が近くに無い事や車等で移動することが難しいことから、「誰でもが出来る環境」が必要となることの理解を得た。 ⑤環境マークについては、意識していないことが分かった。今回の説明で分別する目安になることは理解を得た。 ⑥紙容器リサイクルについては、毎日ヨーグルトを食べるので参加したいが回収場所に持込が出来ない。会として行うには役員の仕事が増える。など回収の課題が浮き彫りになった。 紙容器とプラマークの違いは、理解を得た。</p>
-------	---

事業の課題	ごみを減量することを意識して生活している人が少なかった。環境マークからの正しい分別よりも素材や経験からの分別が日常になっていることが分かった。分別方法を知る機会をつくる必要がある。
-------	--

記録添付

